

巻・頭・言

時間は誰のもの？

自分中心に物事を考えるならば、自分に与えられた時間とは、この世に生まれてから死ぬまでの時間ということだろう。還暦を前にしてここまでの人生をふり返ってみると、自分がどれだけ無駄な時間を過ごしてきたのかと、悔悟の念に苛まれる。

とくに今でも後悔してるのは、大学時代、サークル活動に没頭する余り、1年生を2回もやってしまったことだ。不足単位はたったの2単位で、果たして2度目の1年生はヒマなんてもんじゃなく、この間、有り余る時間を部室の入り浸りとあらゆるバイトに費やした。

当時は、なんて無駄な時間なんだろうと思っていたが、あの頃築き上げた一生ものの仲間達とは、いまでも交流がある。ここ10数年来、この仲間達と年1回集まってライブハウスを貸し切り、内輪の演奏会をやっている。

最初の数年は、先輩や同期の演奏を眺めて、ただ飲んだくれていただけだった。行きたび思ったのは、卒業後もずっとアマチュアバンドで活動している人たちが、自分と比べてなんて生き生きしてるんだろうということである。羨ましくて、そのうち自分もちょっとだけ参加するようになった。とはいえ、30年間ほとんど楽器など手にしていなかったから、これは最早練習でもなくリハビリである。しかしまあ、恥ずかしいながらも、ごく簡単な曲はなんとか演れるようになってきた。

ここで、若い頃と決定的に違うのは、練習で集中できる時間がなんと短いことか。家族には、そのあまりにも短い練習のことを、チョコッと練習＝「チョコ練」と嗤われている。続けようにも、五十肩も痛

金 秀 俊 (こん ひでとし)
技術士(応用理学/総合技術監理部門)
北海道本部 副本部長



いし、老眼も厳しい。こんなことなら、もっと若い頃から参加して、やっておくんだったなどと思っても遅い。自分の30代なんて、会社人間だったじゃないか。これはもちろん、その頃の時代背景もあり仕方なかったかとも思うが、働き方改革が叫ばれるこの令和の時代になって、上手な時間の使い方とはどういうものだろう？と、あらためて考える。

1日の残業時間を1時間減らせば、年間200時間もの時間が生まれる。しかも、一般的には、残業時間と仕事の成果というのは比例しないらしい。なぜ集中力が落ちて効率最悪の夜の時間帯に頑張ろうとしていたのかなあ。今思えば夜中にダレて、大して頑張れてなかったわ。

脳科学者は、集中力があって頭が回転する午前中の3時間、ここで1日の仕事の8割を片付けるべきという。メール返信なんか半日後回しでね。

皆さんも考えてみてはいかがだろう。例えば、朝寝坊してしまったとき、いつもは30分かけて支度していたものが15分で出来たりしてないだろうか。遊びの予定を先に入れるような人が、ゴールに向けて凄まじい集中力を発揮してないか？ 早く帰った奴の方がいいアイデアを出したりしてないか？ まずは早く帰って、疲弊の連鎖を止めることから始める、ということかもしれない。

地球は自転し、時間は、誰も待つてはくれない。時間を自分のものにしよう。

サラリーマンは誰にも終わる時が来る。その時自分は「会社人」のままか、「社会人」になれるのか。そんなことを考えながら、動きの鈍い指にイライラしつつ、今夜も「チョコ練」を続けるのである。